環境の都市　北九州

トップ座談会

モノづくりの街として発展した北九州市は、その過程で環境関連の技術も蓄積した。アジアが世界の成長センターとして注視される中、地元のモノづくり企業はアジア市場を開拓し、環境関連ではアジア諸国へ技術供与などの形で発展を支援してきた。今座談会では北九州の自治体、経済団体、地場企業のトップの方々に参加してもらい、今後の事業戦略などについて語ってもらった。

環境技術で国際貢献を
地元から全技術を提供
地球規模の競争に努力
国内外の販売に線引き

北橋氏　利島氏　鶴田氏　溝口氏

北橋氏

アジアへの貢献

―「成長センター」といらっしゃいますか。北九州市の取り組みから教えて下さい。

北橋　北九州市は日本の四大工業地帯、モノづくりの街として発展する中で、深刻な公害問題に見舞われたが産学官民が一体となって克服した。その過程で得られた技術、ノウハウ、マンパワーを生かして環境の国際協力を始めた。アジアは世界の国内総生産（GDP）の4分の1を占め、今後も高い成長が期待できる。人口も世界の約半分を占める。アジア諸都市の所得が上がることで、市場として期待できる。本市は少子高齢化が速いスピードで進んでいる。いずれアジア諸都市も直面する課題だ。本市の取り組みは大きな参考になるだろう。「元気発進！北九州」プランでは世界の環境首都、アジアの技術首都を掲げている。

―利島会頭のお考えはいかがでしょうか。

利島　環境技術の提供で、北九州の企業や住民がそれに見合う収入を得られるかが問題だ。またアジアに提供する技術は北九州にすべてそろえたい。技術がないのであれば開発拠点の設置や人材育成などを地元でやるべきだ。関東、関西などから持ってきたのでは100%の成果は期待できない。

安川電機のアジア展開としては重電機メーカーとして始まり、国内の自動車産業や工作機械産業と連携してロボットやインバーター、サーボモーターを海外に出してきた。アジアでの売り上げは過去10年間で10倍に伸びている。当初はかんがい用などが主だったが、生活水準が上がり、低コストで高品質な自動車を造るためのロボットやサーボモーターが使われている。地産地消が基本だが、円高でコストが上がっている。日本、北九州の雇用を守る努力をしたい。

―北九州にない技術をそろえるとは、どういうことでしょうか。

利島　下水処理を例に挙げれば、北九州の技術がすべて使われているわけではない。地元に落ちる利益を考えれば技術料をとるだけでは、雇用の確保は無理だ。そこを考えなければならない。

―鶴田社長のお考えはいかがでしょうか。

鶴田　当社は中国を中心にアジア展開を行っている。きっかけは17年前、九州工業大学に留学していた上海市出身の学生の採用だ。視察した上海市の現場は50年前の北九州市のような光景だった。上海市の関係者からの要請もあり、1995年に上海九州環保設備を設立した。当時コンサルティング業務は政府が手がけており、民間企業は認可されていなかった。そのためモノづくり企業へ転換した。欧州特定有害物質規制（RoHS）が世界中に波及したことで、05年に上海緑環商品検測を設立した。商品検査機関として国際規格ISO17025の認証を取得したことで、検査業務などが許可された。また、環境調査や測定などが一部民間に開放されたことを機に、大連市に日中合資大連九州環境科技を設立、下水処理場のモニタリングを行っている。アジアにおける環境産業は急速に伸びる。だが一方で地球規模の競争になるため、さらなる努力が必要だ。

―社名にも「アジア」が入る溝口社長のお考えはいかがですか。

溝口　当社は18年前、シンガポールを通じて東南アジアへ輸出を始めた。その後順次台湾、韓国、中国に現地の販売代理店を設けて展開している。中国は当社にとって新しい市場。研修生を受け入れ、生産実習を通じて当初は現地生産を計画していた。しかし最近では人件費が高騰し、中小企業が現地生産するのは困難な状況となった。ただ、アジア市場全体は大きなものになるので生産拠点を別に定めた計画を立てたい。国内外で販売するものの線引きが必要だ。ひと昔前の製品、まねされてもよい製品は海外で製造し、日本ではさらによい製品を造る戦略を立てている。

出席者

北九州市長
北橋　健治氏

北九州商工会議所会頭
（安川電機会長）
利島　康司氏

環境テクノス社長
（北九州環境ビジネス推進会代表幹事）
鶴田　暁氏

アジア技研社長
（北九州オンリーワン企業）
溝口　純一氏

〈司　会〉
日刊工業新聞社西部支社長　松本亮一

利島氏

スマートコミュニティ

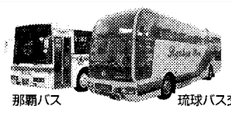
―環境への取り組みでは「北九州スマートコミュニティ創造事業」も注目されています。

北橋　研究所や大学が集積するほかの三大都市と互角にやっている。大きく異なる点は、自営線を使った独自の電力供給システムを有していることだ。新日本製鉄の天然ガスコジェネレーション発電があるのは強みだ。

―アジアへの貢献について教えて下さい。

利島　水ビジネスは、ほかの都市も乗り出しているため、国内間の競争に発展する可能性もある。相手国に何が適するのか、国内で整理する必要があるだろう。最終的には日本に適切な技術を残すことが大切だ。部分的に持って行くのでは大きな利益が得られない。安川電機のインバーターやサーボモーター、ロボットは、相手国に合った製品を造るのに適している。加えて省エネ、低炭素を提供したい。インバーターは世界で累計1500万台を販売した。空調設備のインバーターがすべて稼働している前提で、世界で3億トンの二酸化炭素（CO_2）を排出抑制する計算だ。アジア、世界で使われている設備をインバーターに置き換えていけるようにしたい。また、ブレーキで発生するエネルギーを回生する省エネ型ロボットを開発している。コントローラを取り換えるだけで済む。ロボットは世界で100万台あり、取り換える市場はそれだけのものになる。

あなたの街で、あなたとともに。

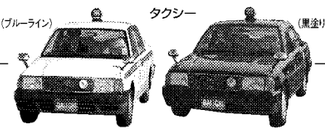

那覇バス　琉球バス交通

電気自動車

ハイブリットタクシー
全国でHV車95台を導入。

グランドパレスマンション

ユニエクセラン

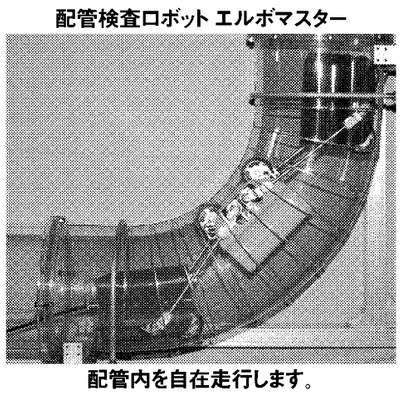

（ブルーライン）　タクシー　（黒塗り）

タクシーを中心に広がる、さまざまな事業。
●タクシー事業　●バス事業　●不動産分譲事業　●不動産賃貸事業　●通信販売事業　●自動車整備事業
●ファイナンス事業　●パーキング事業　●介護サービス事業　●ゴルフ練習場　●ソフト開発事業　●情報通信事業 etc.

DAIICHI GROUP
地域密着型ネットワーク
サービスを目指して。

明日の快適生活環境を創造する
第一交通産業グループ　DAICHI
本社／〒802-0077　北九州市小倉北区馬借2丁目6番8号　TEL.093-511-8811
◎第一交通産業HP……http://www.daiichi-koutsu.co.jp/

“診る”を究めて
SHK 新日本非破壊検査株式会社
本社
〒803-8517　北九州市小倉北区井堀4-10-13
TEL:093(581)1235　FAX:093(571)5008
http://www.shk-k.co.jp　e-mail:eigyou@shk-k.co.jp
東京
〒108-0023　東京都港区芝浦3-20-6　芝浦MYビル4F
TEL:03(5443)8591　FAX:03(5443)8593
e-mail:tokyo@shk-k.co.jp

配管検査ロボット エルボマスター

配管内を自在走行します。

つなげる力が創る未来
太陽光・風力・バイオマス・電池・光触媒・電力用半導体・緑化・水素発生・二酸化炭素の固定化技術。
優れた要素技術とそれらをつなぐシステム化技術が織り成す九工大の" グリーンテクノロジー"。
自然の中から育み、これからの持続可能な社会を支えます。
九工大には、未来につなげる人と技術があります。

*グリーンキャンパスプロジェクト
写真の立方体は、学内の技術を集めた実験施設「グリーンキューブ」です。ここでは、自然の力を利用して、エネルギーを創り、省エネを行い、環境を保全する研究を、3年前から始めています。学内の太陽光発電による電力を、電気自動車に充電。九工大の3つのキャンパスを結ぶ定期便として活躍しています。

国立大学法人 九州工業大学
■工学部・大学院工学府（戸畑キャンパス）
■情報工学部・大学院情報工学府（飯塚キャンパス）
■大学院生命体工学研究科（若松キャンパス）
福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1
九工大　検索

株式会社 安川電機
北九州市八幡西区黒崎城石 2-1
http://www.yaskawa.co.jp